

食生活を考える

～子どもたちのより良い食習慣づくり～

I 主題設定の理由

本研究会では、授業を通して、食に対する興味関心を高め、食べ物の働きや栄養バランス、感謝の心など食に関する知識を深めることにより、子どもたちがより良い食習慣を身につけられることを目指している。また、学級担任と栄養教諭・学校栄養職員がチームティーチングによる授業のありかたや教材教具の活用方法など、効果的な学習活動の実践に向けて取り組んでいる。

学校教育の一環として、食に関する指導が計画的に実践され、望ましい食習慣づくりと、学校生活を生き生きと楽しく過ごす子どもたちを育成したいと考え、本テーマを設定した。

II 研究の内容

1, ティームティーチングによる授業の実践

小学校・第1学年学級活動 題材 「よくかんでたべよう」

授業者：勝沼小学校 教諭 岡 ひさ江 学校栄養職員 早川 里美

内 容 毎日何気なく食べている「ご飯」のかみ方を見直し、かむことの大切さを実感することをねらいとした授業であった。調理員さんの協力もあり給食室で児童一人一人にあったおにぎりを作るなどきめ細かい準備がされていた。

成 果 子どもたちがより良い食習慣を身につけられるような授業実践だった。また授業だけでなく給食時の献立放送、担任と栄養教諭・学校栄養職員の給食時間における指導、家庭への啓発活動など、日々の積み重ねによって食育が深められて行くことを共通理解できた。

2, 食育学習会

スーパー食育スクール実践報告

報告者・塩山北小学校 教諭 内田 厚子 栄養教諭 戸倉 茉耶

内 容 文部科学省指定のスーパー食育スクールの実践 ①自産自消による体験活動 ②アクティブラーニングの視点に立った授業研究 ③家庭・地域との連携による取り組み についての報告でした。

成 果 食育が学習集団づくりにつながっていること、日々の実践の中で一手間かけることで大きな成果が得られること、家庭と地域との連携の大切さなどを学ぶことができた。

3, 一人一実践

一人一実践の報告は、各学校で行われた食育に関わる指導のようすを知ることができ参考になった。また実際に活用した教材も持ち寄り紹介した。昨年までの内容を実践した報告もあり継続して指導して行くことの大切さを確認できた。

4, 外部講師を招いての実習

料理クラブ等で実習できるおやつ作りについて教えていただき、実際に調理をした。おやつの選び方やアレルギーを持つお子さんへのおやつ提供の注意点なども学ぶことができた。

Ⅲ成果と課題

1 成果

- ・実践報告、食育学習会、研究授業等食育推進のために様々な取り組みをすることができ研究が深まった。
- ・一人一実践については自分の教育活動や実践に生かせる内容がたくさんあり、充実した研究となった。
- ・授業実践では教材の使い方が工夫されていて勉強になった。調理員さんの協力もあり単独校の良さがでていた。
- ・児童の実態をふまえた内容が有効であること、専門性を活かしたT・Tの授業の効果、食教育は家庭での取り組みや働きかけが大切であることなどの共通理解が得られたのではないかな。
- ・スーパー食育スクールの取り組みについての報告がありとても良い学びの場となり改めて食育の大切さを実感できた。また学習の素地としての食育の大切さを実感した。興味関心が高い「食」だからこそ、その学びを切り口に様々な教科と関連づけ子どもたちの力を高めていくことができると感じた。

2 課題

- ・学級担任、栄養教諭・学校栄養職員が互いに教科の中にどのように組み入れることができるか洗い出し、計画をたてると良い。
- ・教材の作り方や活用方法について研究したい。
- ・食育の授業が食の知識を養う目的に限らず、意欲的な学習集団作りにつながっていく手立てとして行うことができると知り、次年度以降様々な取り組みができる可能性を感じた。
- ・栄養教諭・学校栄養職員だけでなく多くの先生方に参加していただけると、色々な視点で学習できると思った。